第3章 観光地の魅力を高める新たな取り組み

観光地の魅力向上を目指し、遊ぶ、保全、体験、交流の分野で新しい取り組みをする4団体のリーダーにお話を伺いました。

遊ぶ 自然を体感する

株式会社ノースビレッジ
社長　川村　祐一さん

平成18年の夏に宇樽部でキャンプをしたときに初めてカナディアンカヌーに乗りました。早朝の風のない中で、水の音と野鳥のさえずりが心地よく、普段見ることのない湖面からの眺めに十和田湖の魅力を改めて感じました。

ノースビレッジは、十和田湖や奥入瀬渓流、八甲田でのマウンテンバイクやカナディアンカヌー、ツリーイングなどの体験型メニューを提供しています。わたしたちが目指すものは、普段の生活から開放され、自然の中でゆっくりと過ごすことができるノースビレッジ流のスローライフです。焼山地区を拠点（ベースキャンプ）にしたのは十和田湖、八甲田の中間地点に位置しているからです。

ベースキャンプには、レストランも併設しています。今後はノースビレッジとしてのブランドの強化を図り、地域観光のレジャースポットとしての付加価値を与えられるような会社にしていきたいと思います。

宇樽部キャンプ場でカヌーの乗り方を指導

保全 自然に学ぶ

十和田市は、十和田湖を源とする奥入瀬川の上流に位置しているため、大学を「十和田奥入瀬の郷」と名付けました。大学は、奥入瀬世界遺産登録研究学部、文化観光学部、景観学部、健康福祉学部、郷づくり学部の5つの学部で構成され、長期的な視点で十和田湖や奥入瀬渓流などの自然の活用や環境保全について調査、研究を行っています。

また、若者が地域に生きがいと誇りを持てるように、観光ガイドや樹木ガイドの養成、地場産品を活用した特産品の開発に向けて、民間サイドからサポートしていきます。

今、地球温暖化など環境問題に関する意識が高まっています。十和田湖や奥入瀬渓流をかけがえのない財産として、次の世代に引き継ぐためには、環境問題について、多くのかたと一緒に考えていくことが必要です。

10月に奥入瀬渓流のマイカー交通規制が行われます。奥入瀬渓流の遊歩道化や活用を考えるために、十和田奥入瀬観光ボランティアガイドと十和田西高校の観光科の生徒が観光客を案内します。渓流散策を通して、若い世代と観光客が一緒になって環境保護への理解を深める機会にしたいと思います。

自然との触れ合いは、自然の保全を考えることにつながります。わたしたちの活動が、地域に根ざした新たな活動となって定着することを願っています。

NPO法人十和田奥入瀬郷（くに）づくり大学
理事長　渡部　毅さん

奥入瀬渓流で観光客を案内する
十和田奥入瀬観光ボランティアガイド